

第1学年 社会科学習指導案

日 時 平成16年 6月29日(火) 第5校時

生 徒 1年D組 男子19名 女子20名 計39名

指導者 教諭 阿部 信博

1 単元名 第2編 いろいろな地域を調べよう 「第1章 身近な地域を調べよう」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、身近な地域の地理的事象の中から、いくつかの事象を見だし、観察・調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせることをねらいとしている。身近な地域の学習では、生徒が生活している地域が対象となっており、本校生徒の生活地域は本校学区がほとんどであるため、本単元では学習対象の主地域を本校学区ととらえた。本校学区は北上市の中心部を含んでおり、学区中心部では大規模ではないが大通りのオフィス街とビジネスマンや観光客のためのホテル街、新穀町の官庁街、諏訪町アーケード内や本通りの旧商店街、さくら野などの再開発地域、万世橋地域の飲食店街、そしてその周りの住宅地という地域構図になっている。また、黒沢尻・里分・小鳥崎・町分の一部など稲作がさかんな地域もある。近年、道路整備や宅地開発がすすみ、さらに今年度秋には黒沢尻と里分の住宅地に隣接する形で郊外型ショッピングモールの進出が決まっており、日一日毎に生徒の生活環境は変化し、まさに十年一昔という言葉が当てはまる状況となっている。このように広大且つ変化が著しい学区であり、さらに交通安全上の問題や時間の制約もあり、グループ単位で地域調査を行い、実地調査や聞き取り調査を実施することは困難である。そこで野外での調査は地域観察に限りクラス単位で行い、地域調査に関しては、地図・画像・統計資料などを基に地理的事象を読み取り、課題を追求する学習とした。また、新旧の地図から地域の変容を読み取る時間では、本校学区だけでは地域の変容が乏しいため、北上市全域を扱う。まとめ方や発表の仕方、次単元へのつながりも考慮に入れて基礎を身につける学習とした。

(2) 生徒観

どの生徒も社会的事象に対する関心がとても高い。がしかし、定期テストにおける、観点別の正解率で最も高いのは「社会的事象についての知識・理解」を問う問題であり、正解率は80.2%であった。それ以外の観点を問う問題の正解率は50%前後であった。以上のことから分かるとおり、用語の暗記などの単純なものとはとても好み且つ得意にしているが、諸資料を用いて社会的事象を読み取ることや、それらを根拠に考えを深めるなどは苦手としている。それらの苦手意識を少しでも改善するため本時では作業活動を取り入れ、読み取りの手助けとしている。

(3) 指導観

指導にあたっては、読図や観察を通して身近な地域の地理的特色をつかむことができるように配慮する。そのため、土地利用図の作成・新旧地形図の比較・地域観察を3本柱として単元に盛り込んだ。第1時では通学路図を作成することによって、これからの身近な地域の学習に向けて生徒の意欲の喚起を試みる。第2時から第5時では、地形図の基本的なきまりや読図の方法を学ぶと共に、学校周辺の土地利用図の作成から土地利用の特色・農業の特色・宅地の発達(これはとも関連させる)新旧地形図の比較から、工業団地の進出と工業都市としての発展・交通網の整備・市街地の拡大と人口の変化、ルートマップを用いた地域観察から商店街の衰退と再開発地域・郷土の歴史と史跡、伝承や芸能(きゅうり天王祭や鬼剣舞・さんさ踊り)・自然(北上川や展勝地の桜)などの調査テーマを見つけさせたい。第6時以降は調査を行い、調査結果を報告書にまとめ、発表学習を位置づける。この学習により、生徒は身近な地域の全体像を構築することになる。さらに、次単元「第2章 都道府県を調べよう」の学習の重要な動機付けの場としての意味を持たせるようにもしたい。

本授業では、土地利用図を作成することで、地形図に対する読図力を高め、地域の大まかな特徴を読み取るものとした。以下に示す2点をポイントとして、指導する。

社会科で取り組んでいる予習プリント(本授業では「地図記号の意味調べ」)の答え合わせを授業の中で行い意味の確認と理解を促す。答え合わせを読図作業の前に行うことで、生徒へ予習に対する確固たる意欲と定着を図り、土地利用図作成の中で、基礎的・基本的な内容の定着をはかる。

着色作業を取り入れることにより、地域の特色を地形図上で視覚的にとらえやすいように工夫する。

(4) 家庭学習との連携

予習プリントを使い、学習内容の基礎・基本は予め調べてから授業に臨むようにしている。予習プリントを解くと、自動的に教科書を一度読んだことになる。1年生なので問題の内容は基本的に教科書から読み取れるものだけとし、家庭学習の意欲を挫かせないように心がけている。2学期以降の歴史の授業では、予習プリントの中に、自分の考えを書く場面を取り入れ、予習と授業の更なる連携をはかるつもりである。

3 単元の目標

【社会的事象への関心・意欲】

身近な地域の特色、変化、課題について意欲的に調査活動をし、生活している土地に対する関心を高めている。

【社会的な思考・判断】

身近な地域の諸事象から調査課題を見いだすとともに、調査から得られた情報を根拠として地域の諸事象と人々の生活の特色や変化、抱える問題との関連性について考察している。

【観察・資料活用の技能・表現】

身近な地域に関する観察や調査、地図や統計その他の資料の収集を行い、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、身近な地域の特色を追求し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。

【社会的事象についての知識・理解】

市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、その知識を身につけている。

4 単元の指導計画と評価規準

時	指導目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	通学時における野外観察結果をもとに通学路図を作成し、地域の特色を示す指標となるものを発見し、記録する。			観察の視点（建物・施設・自然）に基づいて、通学路図を描くことができる。	
2 (本時)	地形図を読み取る作業を通して、学校周辺の土地利用をつかむ。			地図記号の意味を理解し、土地利用図の作成を通して、地域の大まかな特色をつかむことができる。	
3	縮尺、等高線、方位などの読図に必要な基礎知識を身につける。				縮尺の意味と簡単な計算の仕方、また等高線について正しく理解することができる。(小テスト)
4	新旧の地形図を比較する活動を通して、地域の変化を読み取る。			新旧の地形図を比較して、地域の変化を読み取ることができる。	
5	ルートマップを持って校外に出て、実際に地域を観察し、地域の特色をとらえる。	地域観察において、地域の地理的事象に興味・関心をもち、自分から進んで地域観察を行おうとする。		自分から進んで、ルートマップに観察ポイントを書き込みながら地域を歩くことができる。	
6	土地利用図の作成や新旧の地図の比較、地域観察を通して、調査していく課題を決める。		土地利用や新旧地図の比較、観察結果を分類し、調査テーマが自分で設定できる。		

7・8	市勢要覧などの統計資料、文献資料、インターネットなどを有効利用し、調査活動を行う。	自分たちの関心のある地理的事象について、テーマを絞って意欲的に取り組むことができる。		観察や調査、地図や統計その他の資料の収集を行い、適切に選択することができる。	
9	発表会に備えて、グループごとに調べた内容をまとめる。			調査活動の成果を整理し、分かりやすく発表するために、まとめ方や発表の仕方に工夫することができる。	
10	発表から、自グループと他グループの調査結果の関連や相違、共通する問題点に気づき、地域的特色を理解する。			各グループの発表を聞き、発表内容や疑問点を要領よくまとめることができる。	発表会において発表された調査結果に基づいて、地域的特色を理解することができる。

5 本時の指導

(1) 目標

地図記号の意味を理解し、土地利用図作成を通して、地域の大まかな特色をつかむことができる

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
資料活用の技能・判断	地図記号の意味を理解し、土地利用図の作成を通して、地域の大まかな特色をつかむことができる。	地図記号の意味を理解し、土地利用図の作成ができる。	机間巡視をし、予習プリントから地図記号とその意味を探させ、着色できるよう支援する。

(3) 展開 - 個に応じた指導 評価

段階	学習活動及び内容、予想される生徒の反応等	支援、評価、留意事項、教具等
導入 7分	<p>1、土地利用のようす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里分に建設中のショッピングモールの建設現場の写真を 見て、土地利用に気づく。 <p>2、学習課題の設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>学校周辺の土地はどのように利用されているのだろうか</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真1（ショッピングモール建設現場の提示） ・以前は水田だったが、そのことは触れずに ショッピングモールの敷地に利用されるとだけ説明。（以前と現在の土地利用の変化については第4時で扱い、その時にこの資料を再度活用する）
展開 33分	<p>3、土地利用を調べるには、どのような方法があるか考える。 生徒の反応：「地図」「見に行く」「人に聞く」</p> <p>4、地形図の表現方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路図と地形図を比較し、表現方法の違いに気づき、 地形図の表現方法をとらえる。 <p>5、予習プリントの答え合わせ</p> <p>6、地形図の読み取り</p> <p>地形図1を読み取り、地形図2に地図記号を赤字で書き込む。 作成した地形図2に着色する。着色は3つに分ける</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・緑 - 田 ・黄 - 畑 ・青 - 宅地 </div> <p>学校周辺の土地利用について気づいたことをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学習の準備段階なので、生徒の自発的な考えに任せる。 ・「地図記号の意味調べ」予習プリント ・ワークシート配付 ・作業指示 の紙板書 ・作業は と順次進めていく。 地図記号の意味を理解し、地形図への分類作業を通して、学校周辺の土地利用をつかむことができる。 ・作業の進み具合を期間巡視し調査。遅い生徒に対しては個別指導し、全員が の作業が終わるように支援する。
終末 10分	<p>7、学校周辺の土地利用について気づいたことを発表する。</p> <p>8、次時の予告と家庭学習の提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・地形図には山を表現しているものもあることを確認し、等高線の読み取りの予習プリントを渡して、次時の課題とする。